

看護師
37年

医療・介護負担
軽く
葵区から女性市議を

市議候補

鈴木あけみ



日本共産党

略歴

- 1963年生まれ。静岡西高校・県立厚生保育専門学校卒。
- 県立病院養心荘(現・静岡県立こころの医療センター)に入職。退職後、訪問看護ステーションで働く。●静岡県職員組合女性部長、県立病院労働組合本部執行委員等を歴任。
- 家族は両親と子ども2人。与一在住。

事務所／葵区籠上28-12 電話054-291-7787

証紙

鈴木あけみさん

応援します



患者と一緒にレクリエーション考案



元同僚・看護師 草野寿美子さん

明美さんとは、こころの医療センターでともに看護師をしていました。記憶にあるのは患者さんといっしょに考案したレクリエーションを楽しんだことです。私は退職後も、医療の現状、状況を教えてもらっています。応援しています。

障害を早期に発見できる施設を



障害児施設管理者 高田朋代さん

静岡市には、障害を早期発見し、療育につなげ継続して機能する施設がありません。

あけみさんには、親子が安心して支援を受けられる市直営の施設を期待します。

必ず地域の助けになる人



県職員退職者 山本徳子さん

白衣をスーツに着替える決断は並大抵ではなかったはずですが、彼女の責任感と共感力は必ず地域の助けになると思います。

やるっきゃない!でがんばってね。

私、市川正からバトンタッチ



市議 市川 正

市議を今期で引退します。私のあとをつぐ鈴木あけみさんは看護師で、医療・介護など現場の声を市政に届けられる人です。いっそうのご支援を鈴木あけみさんへお寄せください。



困っている人に寄り添う人

前県議会議員 鈴木せつ子

看護師として、困っている人に寄り添ってきた鈴木あけみさんは、心の痛み、がわかる人です。ぜひ市政で働かせてください。

あけみ history

陸上部、バレー部に所属

走ることが大好きで、小学校5年から中学卒業まで校内のマラソン大会で1位に。中学の時は陸上部で800mの選手。

高校はバレー部に所属。ここぞというときに、レシーブやブロックがうまくできると、嬉しかったです。

看護学校に進学

父が失職するなか、受験を許されたことに感謝。

幼稚園のとき、自転車の後輪に足を挟み、病院にお世話になり、将来、病院に勤めたいと思っていました。看護学校に受かり進学しました。

県立病院に入職

県立病院養心荘に入職し、先輩について一緒に仕事を覚えるのに必死でした。

当時は労働組合が強く、残業もなく、年休もとれて、働きやすい職場でした。



労働組合で昇任差別とたたかう

労働組合に加入。かつて県では、組合活動や、女性、思想等を理由とした不当な昇任差別があり、それとたたかう女性の姿を間近にみてきました。女性部の活動に加わり、役員をつとめるようになりました。

「政治をよくしたい」と共産党へ

組合運動のなかで、おもとにある政治を変えないと職場もよくならないと思うようになりました。

患者さんに親身に対応している組合活動の先輩たちに誘われて入党しました。

1 看護師37年、患者さんと向き合う 静岡の医療・介護を よくする1票

- 国保・介護保険の負担軽減
- 保健福祉センター廃止撤回
- 子どもの通院医療費ゼロ
- 河川改修など防災対策強化



「患者さんの立場にそってケアをしてあげたい」——そんな思いで、県立病院で長年働いてきました。

ました。
長男が大学に進学するとき、学費が180万円もかかり、仕送りをするために、食費を切り詰めたこともありました。



子どもが小さい頃は、院内保育所に預け、同じ病院勤務の夫と夜勤が重ならないように勤務をくんでもらい、子育てをしてき

職場の多忙化に心を痛め

県立病院の独立法人化や病院建て替えなどがあり、看護業務が見直されて多忙に。

夜勤も増え、配置基準も少なく、患者さんへのケアも十分にできず、やさしく対応できないことに心を痛めました。

十分な看護ができる環境へ、改善を求めてきました。

訪問看護で生活苦を目の当たりに

元同僚の誘いで、訪問看護ステーションに再就職。

訪問先では、低所得者や生活保護を受けている方もいて、エアコンが買えない、配食サービスを利用できないなど、生活の厳しさを目の当たりにしました。

誰もが安心して受けられる医療・介護をめざし、昨年11月、「国保料引き下げを求める請願」の市議会要請に参加(写真①)。その実現へ全力をあげます。

3 市議47人中女性は3人、葵区はゼロ 女性の声を届ける1票

- 男女賃金格差の是正
- 給食費ゼロ、2歳までの保育料ゼロ
- 医療・福祉・介護などケア労働者の待遇改善

母親大会で要求を持ち寄り

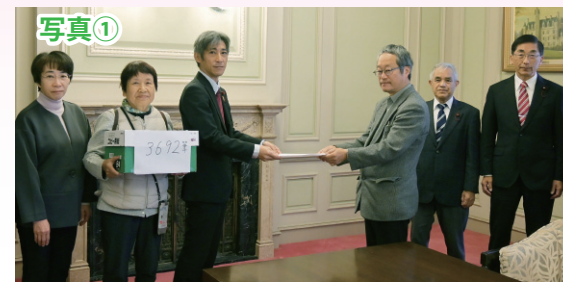
「ひとりぼっちのお母さんをなくそう」という母親大会の運営に、役員として携わり、子育て世代の

お母さんたちと、子育てや教育、くらし、平和など、その時々を要求を持ち寄って、話し合い、学びあいました。

組合の女性部長のときは、男女賃金差別の是正や、男女共同参画の推進にも取り組みました。

女性が多く働く介護・福祉・保

鈴木あけみ



写真①



写真②

2 労働組合役員——声を聞き届けてきた人 市民と市政をむすぶ1票

職場の要求を届けて

「夜勤で多忙、給料を上げて」——私は仕事をしながら、長年、県立病院労組の役員として、働き続けられる職場へ、病院当局とくり返し交渉を重ねてきました。

県職員組合の専従役員のとき、職場集会に参加。県の職場ごとに要求や悩みを聞き、要求書をつくって県当局と交渉して、改善をはかってきました。

いま地域の要望を聞いて

いま地域を回り、要望をうかがっています。

「安倍川土手にかかる階段に手すりを」という要望を受けて、市川市議と地元町内会長さんとともに、国交省静岡河川事務所へ要請しました。

土手をはさんだ住宅側と河川側(写真②)にも手すりが設置され、喜ばれています。



育などケア労働の待遇改善など、ジェンダー平等の立場で、女性の声をもっと市政に届けます。